橋　梁　定　期　点　検　調　書

橋りょう番号	0
橋りょう名	マルマルオオハシ 〇〇大橋
路　線　名	県道〇〇線
所　在　地	鳥取県〇〇市

橋梁定期点検調書その 1　　諸元，総合点検結果

橋梁番号	ﾌﾘｶﾞﾅ	マルマルオオハシ	架設年（西暦）	橋長 － 径間数 － 桁種	事務所名	米子県土整備局	点検者	○○○○	点検日	2024/○/○
	名称	○○大橋	S62　1987	48.3m　2　4　鋼製桁	所 在 地	鳥取県○○市	路線名	県道○○線		

交差区分｜名称	3	○○川	上部工型式		鋼I桁橋	調書区分数	―	積雪寒冷地	○	備考(補修履歴等)	詳細調査履歴
橋梁幅員		13.3 m	下部工形式	A1橋台	逆T式橋台	床版支間	3.00 m	凍結防止剤散布	○	R3上部工補修	R2上部工詳細調査
自動車交通量		4,887 台/日		A2橋台	逆T式橋台	支承材	鋼製	海岸からの距離	15.0km		
うち大型車交通量		566 台/日		橋　脚	張出し式橋脚	伸縮装置	ゴム製	鋼橋塗装系	―		
緊急輸送道路		第 1　次	基礎形式		直接基礎	高欄種別	鋼製	橋面防水処理	―	緯度	経度
						点検方法	橋梁点検車（BT-200）			35.45678	134.12345

定期点検調書その1－1　諸元・点検結果のまとめ

劣化･損傷部位		要素番号	損傷度	劣化･損傷内容	損傷写真番号	性能の推定に用いる指標	想定する状況の性能の推定 活荷重	地震	豪雨・出水	その他
上部構造	コンクリート床版	①左側端張出し	iii	⑥ひびわれ	1	c2	C	A	―	―
		②左側歩道下	iii	⑪床版ひびわれ	2					
		③車道下	iv	⑪床版ひびわれ　⑧漏水・遊離石灰	3　4					
		④右側歩道下	ii	⑪床版ひびわれ	5					
		⑤右側端張出し	ii	⑥ひびわれ	6					
	主　桁（鋼　製）	①左側端耳桁	iii	⑤防食機能の劣化	7	c1				
		②左側歩道下	v	⑤防食機能の劣化	8					
		③車道下	v	⑤防食機能の劣化 ①腐食	9　10					
		④右側歩道下	v	⑤防食機能の劣化	11					
		⑤右側端耳桁	iii	⑤防食機能の劣化	12					
	横桁・縦桁等	⑥	v	⑤防食機能の劣化	13	c1				
下部構造	橋　台	A1　〔有筋〕	i	⑥ひびわれ	14	a	C	C	B	―
		A2　〔有筋〕	i	⑥ひびわれ	15					
	橋　脚（1 基）	P1	v	⑥ひびわれ	16　17	c2				
		P2	要素なし							
		P3	要素なし							
		P4	要素なし							
		P5	要素なし							
		P6	要素なし							
	基　礎	橋台・橋脚とも	目視困難	㉖洗堀	18	－				
上下部接続部	支承本体（アンカーボルト）		v	⑤防食機能の劣化 ①腐食	19　20	c1	B	B	―	―
その他構造（ﾌｪｰﾙｾｰﾌ）	落橋防止装置（鋼製部）		i	防食機能の劣化	21　22	a		A		―
	〃（Co部），変位制限装置等		i							
その他構造	伸縮装置		v	㉓変形・欠損　㉑漏水・滞水	23	c2	A			
路上部	舗　装		v	⑮舗装の異常	24	c1				
	排水桝・排水管		i	⑤防食機能の劣化	25					
	点検施設		要素なし							
	地　覆		i	⑥ひびわれ	26					
	鋼製高欄・防護柵（ガードレール）		i	⑤防食機能の劣化	27					
	コンクリート高欄（壁式）		要素なし							

性能の推定（橋全体として）	C	C	B	―
健全性の診断区分（主たる変状要因）	Ⅲ ①疲労　③地震			

橋梁番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：○○○○	■点検日 2024/○/○
0	○○大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県○○市	県道○○線

定期点検調書その１－２　総合点検結果

構成部材		部材群毎の性能の推定に用いる指標を決定した技術的評価	参考写真	損傷の種類・位置・状態	推定される変状要因	進行の可能性及び構造安全性の推定	道路利用者への影響・第三者被害の可能性	措置の必要性・緊急性
上部構造	コンクリート床版	車道下床版の遊離石灰を伴う格子状の床版ひびわれは貫通していると考えるが、格子の大きさは床版厚より大きく、角欠けは確認できない状況である。以上より、緊急対応が必要な状況ではないが、今後も繰り返し大型車両の通行の影響を受けるとひびわれ密度の増大や角欠けが発生し、抜け落ちに発展する可能性があるため、早期に床版の耐荷力の回復を行うべきである。	3　4	P1-A2間車道部の床版下面で、2方向のひびわれが生じており、一部で遊離石灰が確認できる。遊離石灰が観られることから、コンクリート断面内部でひび割れが貫通していると考える。	①疲労 活荷重の繰り返し載荷により疲労ひびわれが生じ、そこに路面水が進入している可能性が高い。	前回点検からひびわれの増加、遊離石灰の範囲拡大が確認できることから、今後も疲労が進行する可能性が高いため、放置すると大型車の通行により抜け落ちに発展する可能性がある。	抜け落ちが発生した場合、道路利用者への影響が大きい。	疲労が進行しており、早期に耐荷力の回復を行うべきである。
	主　桁	主桁は全体的に防食機能が劣化し、桁端部の下フランジでは表面的な腐食が生じている。現時点で耐荷性能に影響はないが、今後も腐食が進行すれば耐荷性能に影響する可能性があるため、予防保全として防食機能の回復等を行うことが望ましい。	9　10	主桁は全体的に防食機能が劣化しており、G3桁端部の下フランジでは表面的な腐食が観られる。	⑯防食機能の低下 塗装塗替えが行われていないことから、経年による防食機能の低下であり、遊間からの漏水が進行を助長している。	塗装の耐用年数を超えていること、冬季には凍結防止剤を含む漏水が供給されることから、腐食が進行する可能性がある。	桁端部の腐食が進行する懸念はあるが、直ちに耐荷性能に影響するものではないため、次回点検までの道路利用者への影響は小さい。	現時点で耐荷性能に影響ないが、今後も腐食は進行するため、予防保全の観点から防食機能の回復が望ましい。
	横桁・縦桁等	横桁は全体的に防食機能が劣化してるが、現時点で腐食には至っておらず耐荷性能に影響はない。ただし、このまま放置して腐食に進展すれば耐荷性能に影響する可能性があるため、予防保全として防食機能の回復等を行うことが望ましい。	13	横桁は全体的に防食機能が劣化しているが、現時点で腐食には至っていない。	⑯防食機能の低下 竣工後塗装塗替えが行われていないことから、経年による防食機能の低下である。	塗装の耐用年数を超えていることから、今後は腐食が生じる可能性がある。	腐食が生じる可能性はあるが、直ちに耐荷性能に影響するものではないため、次回点検までの道路利用者への影響は小さい。	全体の防食機能が低下していることから、腐食が生じる可能性があるため、予防保全の観点から防食機能の回復が望ましい。
下部構造	橋　台	目立った変状は観られない。	14　15					
	橋　脚	橋座部に支承アンカーから斜めに生じたひびわれは、支承からの水平力によるせん断破壊であると考えられ、耐荷性能が低下している可能性がある。以上より、活荷重や地震の影響に対して支点や上部構造を支持できない状態になる可能性があることから、早期に耐荷性能の回復を行うべきである。	16　17	P1橋脚橋座に支承アンカーから斜め方向にひびわれが発生している。	③地震 支承からの水平力によるせん断破壊と考える。	前回点検から目立った変化はないが、耐荷性能が低下している可能性があり、地震等が発生した場合、落橋につながる可能性がある。	橋脚の破壊、ひいては落橋につながる可能性があり、道路利用者への影響が大きい。	大きな地震が発生した場合には落橋の可能性もあり、第三者への影響も大きいため、直ちに水平力に対する耐荷性能の回復を行うべきである。
	基　礎	水面下及び地中部について目視困難である。 ※上部工に異常な変形や橋脚の沈下などは見られない	18	-	⑲洗堀			
上下部接続部	支承本体	支承全体の防食機能が劣化しており、部分的に腐食が生じている。現時点では著しい断面減少は観られず、支承機能に影響ないと判断するが、腐食が進行すれば機能への影響が懸念されるため、予防保全として防食機能の回復を行うことが望ましい。	19　20	支承全体の防食機能が劣化しており、部分的に腐食が生じている。現時点では著しい断面減少は観られない。	⑯防食機能の低下 塗装塗替えが行われていないことから、経年による防食機能の低下であり、遊間からの漏水が進行を助長している。	塗装の耐用年数を超えていること、冬季には凍結防止剤を含む漏水が供給されることから、今後も進行する可能性がある。	直ちに荷重支持機能や変位追随機能が失われるものでは無いため、次回点検までの道路利用者への影響は小さい。	今後も腐食が進行すれば支承機能に影響する可能性があるため、予防保全として防食機能の回復を行うことが望ましい。
その他構造	落橋防止装置 変位制限装置等	目立った変状は観られない。	21　22					
	伸縮装置	P1橋脚伸縮装置の止水ゴムが除雪板により損傷し、止水機能が低下している。伸縮装置はゴム材以外に損傷がなく、走行性にも影響は無いものの、漏水を放置すれば主桁端部や支承の腐食を促進することから、早急に止水機能の回復を行うべきである。	23	P1橋脚伸縮装置の止水ゴムが除雪板により損傷して止水機能が低下しているため、橋座面に滞水が生じている。	⑩その他 止水ゴムがグレーダによる除雪作業で損傷を受けている。	冬季の除雪作業時にさらなる損傷が生じる可能性がある。	伸縮装置は止水ゴム以外に損傷がなく、走行性にも影響は無いため、道路利用者への影響はほとんどない。	主桁端部や支承の腐食を促進すること、橋台の劣化要因になり得ることから、早急に止水機能の回復を行うべきである。
路上部		路面に複数のポットホールが観られる。放置しておくと二輪車などの転倒事故や剥離片の飛散による被害が懸念されるため、早期の補修が望まれる。	24	P1-A2間車道部左側にΦ50cm程度のポットホールが見られる。	①疲労 舗装のひびわれ等の損傷に大型交通車両の衝撃や振動を繰り返し受けたことで生じたものと考える。	前回点検からポットホールの範囲は拡大している。	これ以上拡大すると二輪車などの転倒事故や剥離片の飛散による被害が懸念される。	第三者被害の可能性があるため、早急な措置が必要である。

所見

【上部構造】
車道下床版に遊離石灰を伴う格子状の床版ひびわれが観られる。大型車両の交通量が多いことやひびわれ発生パターンから疲労と判断する。遊離石灰を伴うことからひびわれは貫通していると考えられるが、格子の大きさは床版厚より大きく(0.5m程度)、角欠けは確認できない状況である。以上のことから、現時点で緊急対応が必要な状況ではないと考えるが、今後も繰り返し大型車両の通行の影響を受けるとひびわれ密度の増大や角欠けが発生し、抜け落ちに発展する可能性がある。抜け落ちが発生した場合は、道路利用者への影響が非常に大きいことから、早期に床版全体の耐荷力の回復を行うべきである。
主桁は全体的に防食機能が劣化しており、桁端部の下フランジで表面的な腐食が生じている。経年劣化によるものであるが、遊間からの漏水が進行を促進している。現時点では著しい断面減少には至っておらず、耐荷性能に影響はないと判断するが、今後も腐食が進行すれば影響する可能性があるため、予防保全として防食機能の回復等の耐久性能の回復を行うことが望ましい。
【下部構造】
橋脚橋座部に支承アンカーボルトから斜めに生じたひびわれが観られる。ひびわれは支承からの水平力によるせん断破壊であると考えられ、耐荷性能が低下している可能性がある。以上より、活荷重や地震の影響に対して支点や上部構造を支持できない状態になる可能性があることから、早期に水平力に対する耐荷性能の回復を行うべきである。
【上下部接続部】
支承全体の防食機能が劣化しており、部分的に腐食が生じている。現時点では著しい断面減少には至っておらず、支承機能に影響ないと判断するが、今後も腐食が進行すれば荷重支持機能や変位追随機能に影響することが懸念されるため、予防保全として防食機能の回復等の耐久性能の回復を行うことが望ましい。
【その他構造（フェールセーフ・伸縮装置）】
P1橋脚伸縮装置の止水ゴムが除雪板により損傷して止水機能が低下しているため、橋座面に滞水が生じている。伸縮装置はゴム材以外に損傷がなく、走行性にも影響は無いものの、このまま放置すれば主桁端部や支承の腐食を促進することや下部工の劣化要因になり得ることから、早急に止水機能の回復を行うべきである。
【総評】
上部構造・下部構造・その他構造（伸縮装置）の損傷状況及び性能の推定結果を踏まえ、健全性診断の区分”Ⅲ”と判断する。
【その他】
路面に複数のポットホールが観られる。放置しておくと二輪車などの転倒事故や剥離片の飛散による被害が懸念されるため、早期の補修が望まれる。

橋梁番号･名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

定期点検調書その2　橋梁一般図　#1/2

橋梁一般図　(位置図,平面図,側面図,断面図等)

※径間が複数ある場合は径間番号をつけること
※既存の図面等がない場合は概略図でよい

橋梁位置図添付

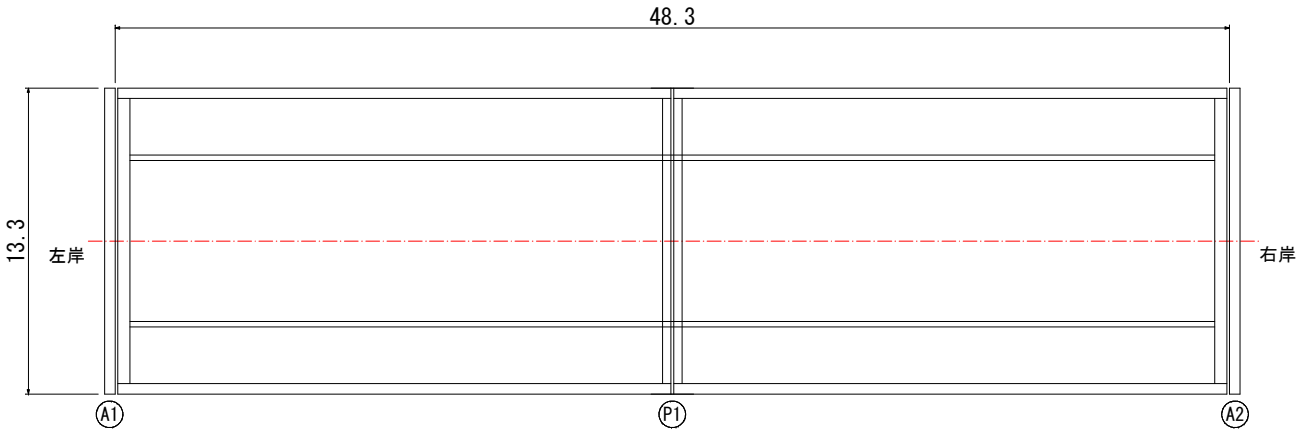
橋梁番号･名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

定期点検調書その2　橋梁一般図　#2/2

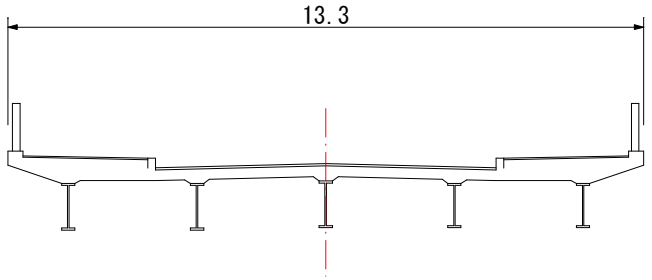
橋梁一般図　(位置図,平面図,側面図,断面図等)

※径間が複数ある場合は径間番号をつけること
※既存の図面等がない場合は概略図でよい

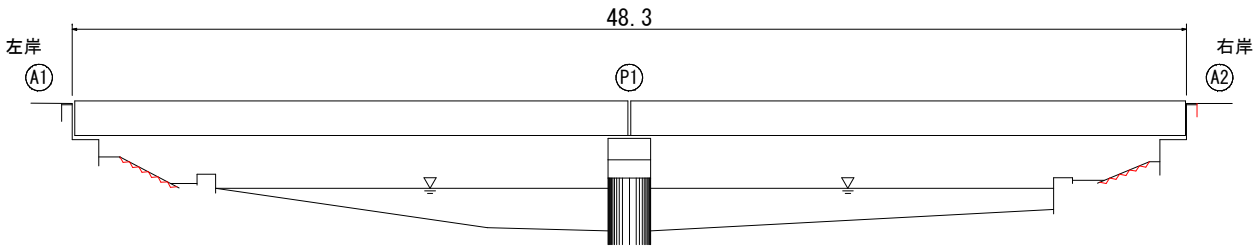
平面図



断面図



側面図

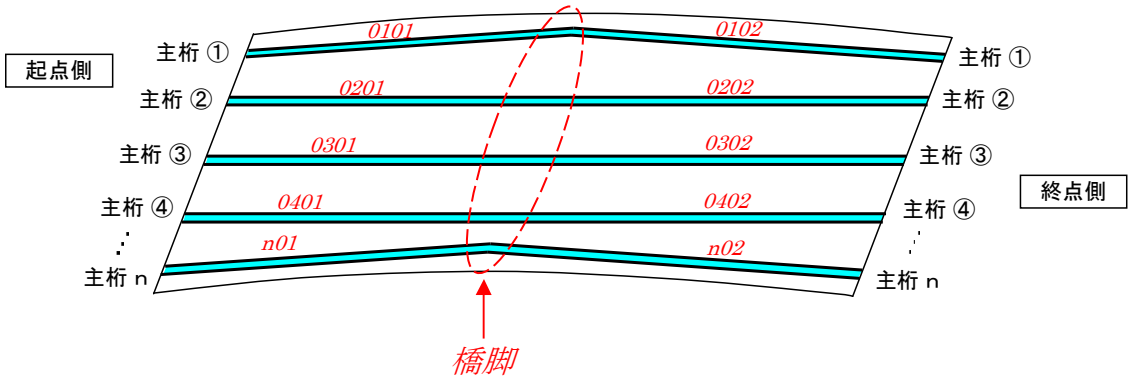


橋梁番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：〇〇〇〇	■点検日	
0	〇〇大橋	S62(1987)	48.3m|2｜鋼製桁	所在地	鳥取県〇〇市	路線名	県道〇〇線

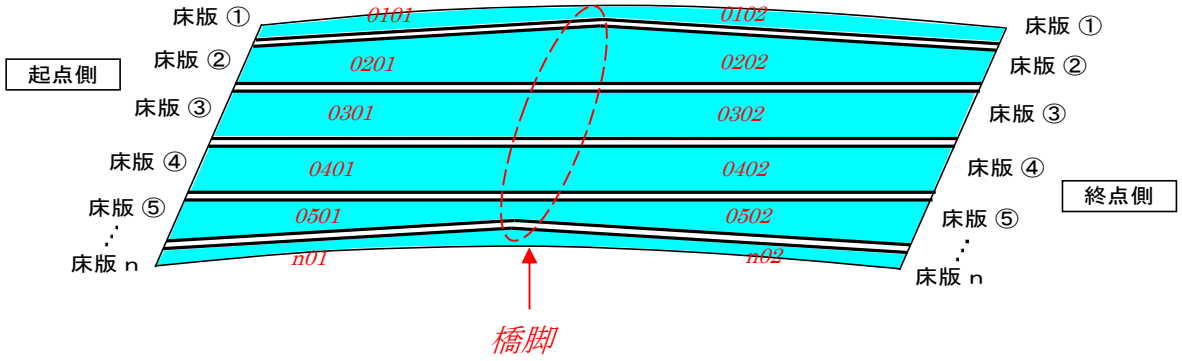
定期点検調書その3　点検模式図

#1/1

主桁



床版



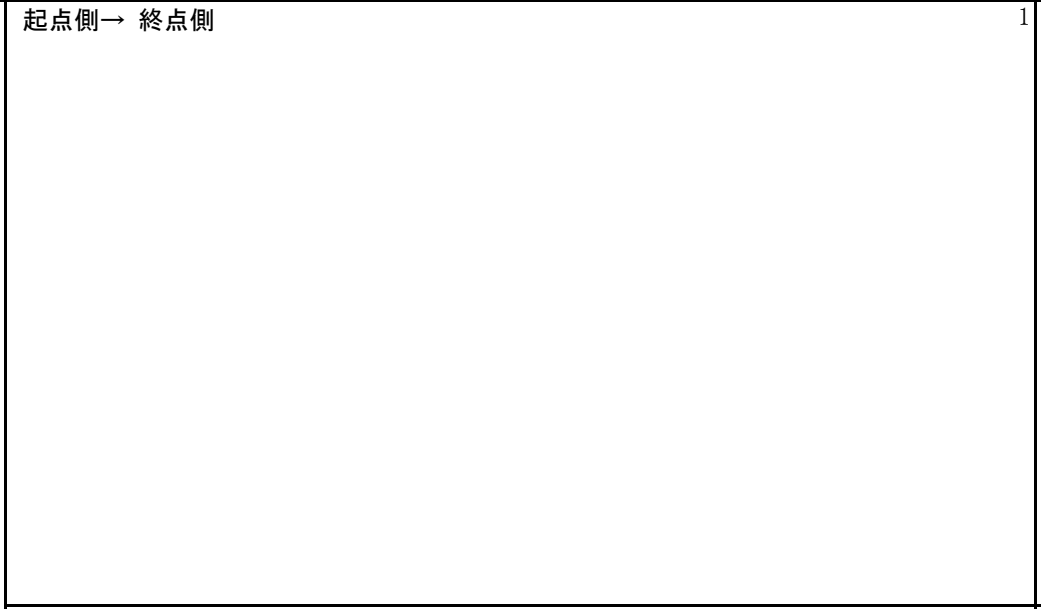
※ 床版、主桁とも要素細分を一般図等を用いて記録する。
※ 床版，主桁とも"通り"の要素細分を 終点側に向かって
　左から主桁(床版)01，02，03･･･主桁(床版)nとする。
※ 多径間の場合は"径間"ごとの要素細分をし、起点側から
　主桁(床版)01，02，03･･･主桁(床版)nとする。
※ 個別の要素を特定する場合、"通り･径間"の順番を続けて
　並べた 4ケタの要素細分"〇〇〇〇"で表現する。下図参照

※ 一般的な桁橋の床版は n+1 までの数字になる。

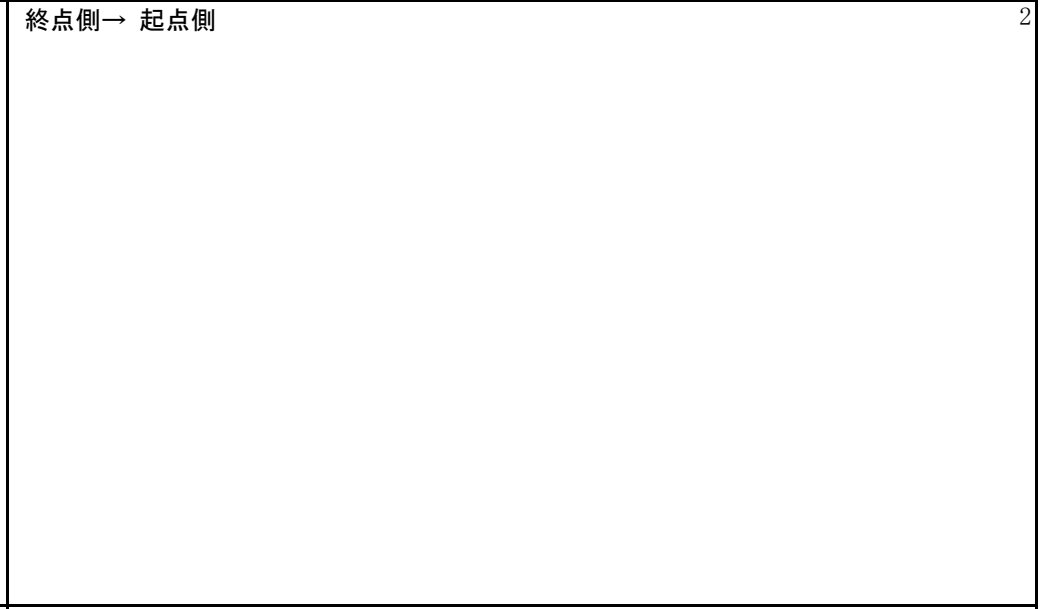
橋梁番号･名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

定期点検調書その4　現地状況写真　# 1/2

起点側→ 終点側　1



終点側→ 起点側　2



上　流→　下　流　3

下　流→　上　流　4

橋梁番号･名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

定期点検調書その4　現地状況写真　# 2/2

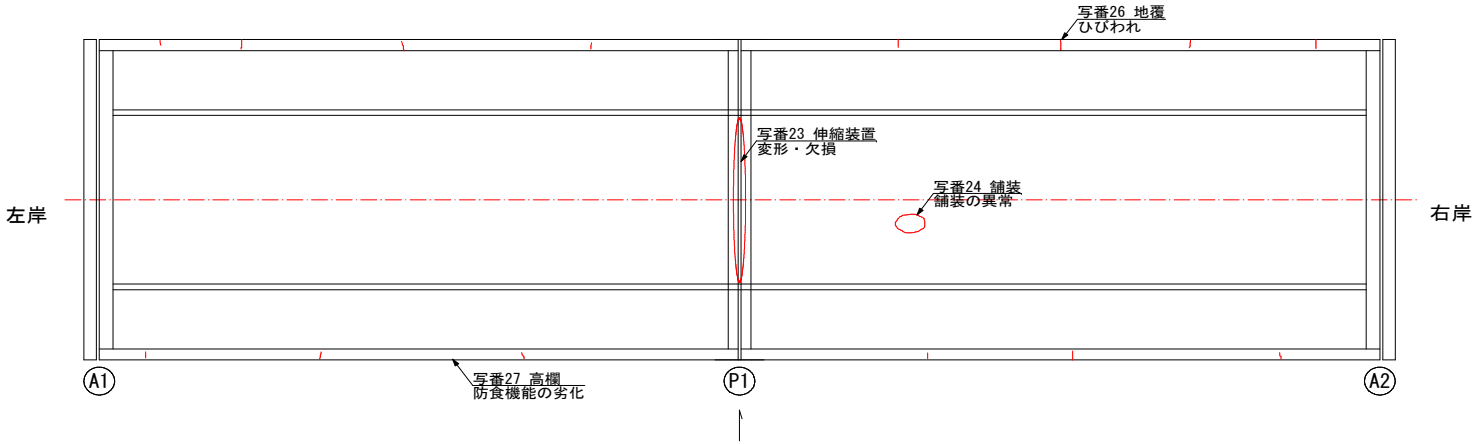
下部工(起点側) 5	下部工(終点側) 6
床版(下側から) 7	支承等 8

橋梁番号･名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

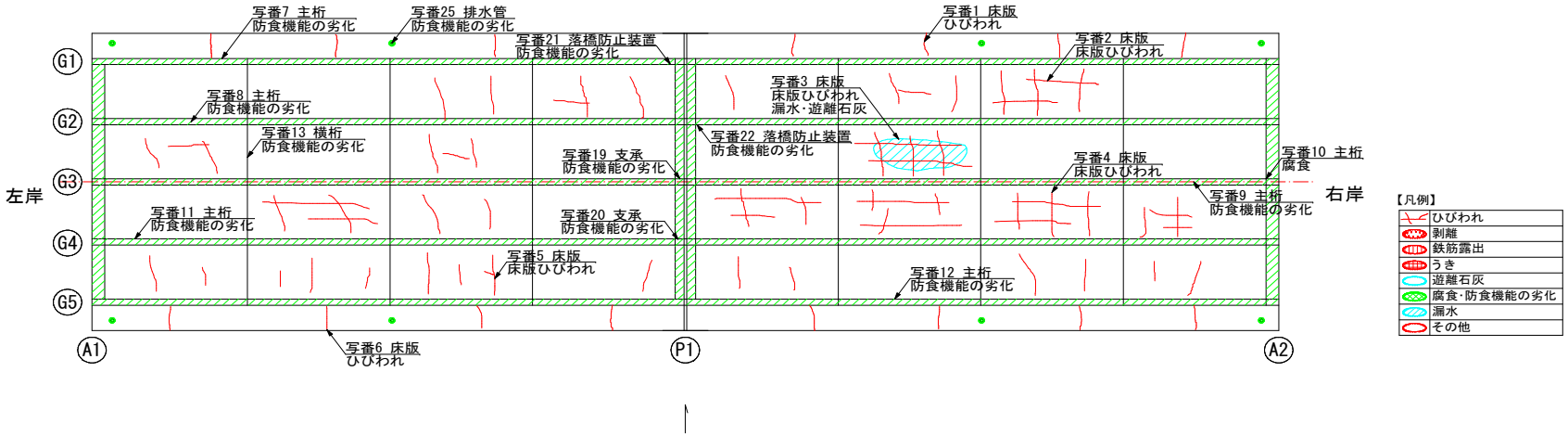
定期点検調書その5　損傷図・変状位置図　#1/2

変状位置図

路　面　図



床版下面図
(透過図)

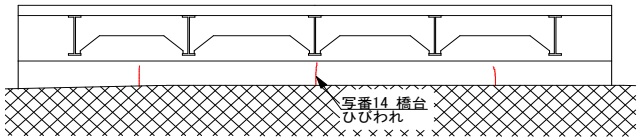


橋梁番号･名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

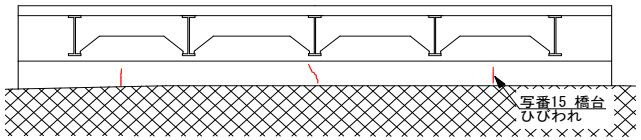
定期点検調書その5　損傷図・変状位置図　#2/2

変状位置図

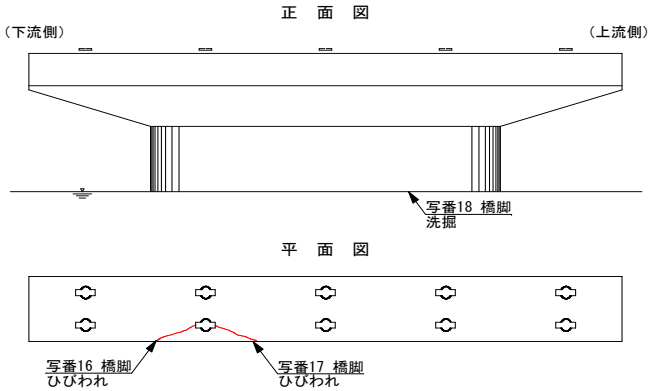
A1橋台



A2橋台



P1橋脚



【凡例】

	ひびわれ
	剥離
	鉄筋露出
	うき
	遊離石灰
	腐食･防食機能の劣化
	漏水
	その他

橋梁番号･名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

定期点検調書その6　劣化・損傷状況写真　# 1/7

写番 1: 床版0102

変状状況: ⑥ひびわれ
損傷度 : iii
※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有
損傷度判定理由：	

写番 2: 床版0202

変状状況: ⑪床版ひびわれ
損傷度 : iii
※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	無
損傷進行性の有無	有
損傷度判定理由：	

写番 3: 床版0302

変状状況: ⑪床版ひびわれ　2方向,遊離石灰あり
損傷度 : iv
※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有
損傷度判定理由：床版下面に遊離石灰を伴う2方向のひびわれを確認。ただし、角欠けは生じていない。	

写番 4: 床版0402

変状状況: ⑪床版ひびわれ
損傷度 : iv
※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有
損傷度判定理由：	

橋梁番号･名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

定期点検調書その6　劣化・損傷状況写真　#2/7

写番 5: 床版0501	水分供給の有無	無	写番 6: 床版0601	水分供給の有無	有
変状状況: ⑪床版ひびわれ	損傷進行性の有無	有	変状状況: ⑥ひびわれ	損傷進行性の有無	有
損傷度 : ii	損傷度判定理由 :		損傷度 : ii	損傷度判定理由 :	
※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等			※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等		

写番 7: 主桁0101	水分供給の有無	有	写番 8: 主桁0201	水分供給の有無	有
変状状況: ⑤防食機能の劣化	損傷進行性の有無	有	変状状況: ⑤防食機能の劣化	損傷進行性の有無	有
損傷度 : iii	損傷度判定理由 :		損傷度 : v	損傷度判定理由 :	
※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等			※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等		

橋梁番号･名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

定期点検調書その6　劣化・損傷状況写真　#3/7

写番 9: 主桁0302

変状状況: ⑤防食機能の劣化

損傷度 : v

※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有
損傷度判定理由：主桁の広範囲で防食機能の劣化が生じている。腐食は観られない。	

写番 10: 主桁0302

変状状況: ①腐食　表面的な腐食

損傷度 : iii

※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有
損傷度判定理由：下フランジで一部腐食が生じているが、表面的な腐食で断面減少がほとんどない。	

写番 11: 主桁0401

変状状況: ⑤防食機能の劣化

損傷度 : v

※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有
損傷度判定理由：	

写番 12: 主桁0502

変状状況: ⑤防食機能の劣化

損傷度 : iii

※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有
損傷度判定理由：	

橋梁番号･名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

定期点検調書その6　劣化・損傷状況写真　#4/7

写番 13: 横桁02	水分供給の有無	有	写番 14: 橋台01	水分供給の有無	有
変状状況: ⑤防食機能の劣化	損傷進行性の有無	有	変状状況: ⑥ひびわれ	損傷進行性の有無	無
損傷度 : v	損傷度判定理由 :		損傷度 : i	損傷度判定理由 :	
※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等			※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等		
写番 15: 橋台02	水分供給の有無	有	写番 16: 橋脚01	水分供給の有無	有
変状状況: ⑥ひびわれ	損傷進行性の有無	無	変状状況: ⑥ひびわれ　せん断ひびわれ	損傷進行性の有無	有
損傷度 : i	損傷度判定理由 :		損傷度 : v	損傷度判定理由 : 支承アンカーから斜め方向にひびわれが生じており、せん断ひびわれと判断した。	
※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等			※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等		

橋梁番号･名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

定期点検調書その6　劣化・損傷状況写真　#5/7

写番 17: 橋脚01

変状状況: ⑥ひびわれ　せん断ひびわれ

損傷度 : v

※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有

損傷度判定理由：支承アンカーから斜め方向にひびわれが生じており、せん断ひびわれと判断した。

写番 18: 橋脚01

変状状況: ㉖洗堀　目視困難

損傷度 :

※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	－
損傷進行性の有無	有

損傷度判定理由：水面下及び地中部について目視困難であるが、上部工に異常な変形や橋脚の沈下などは見られない。

写番 19: 支承0302(第1径間)

変状状況: ⑤防食機能の劣化　一部で表面的な腐食

損傷度 : v

※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有

損傷度判定理由：全体に防食機能が劣化し、一部で腐食が生じている。腐食は表面的で、著しい断面減少は観られない。

写番 20: 支承0402(第1径間)

変状状況: ⑤防食機能の劣化　一部で表面的な腐食

損傷度 : v

※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有

損傷度判定理由：全体に防食機能が劣化し、一部で腐食が生じている。腐食は表面的で、著しい断面減少は観られない。

橋梁番号･名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

定期点検調書その6　劣化・損傷状況写真　#6/7

写番 21: 落橋防止装置0102(第1径間)

変状状況: **⑤防食機能の劣化**

損傷度 : **i**

※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有
損傷度判定理由：	

写番 22: 落橋防止装置0201(第2径間)

変状状況: **⑤防食機能の劣化**

損傷度 : **i**

※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有
損傷度判定理由：	

写番 23: 伸縮装置02

変状状況: **㉓変形・欠損**　**ゴム材の損傷,漏水**

損傷度 : **v**

※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有
損傷度判定理由：除雪板による損傷で止水機能が著しく低下し、漏水が支承等の腐食原因になっている。	

写番 24: 舗装02

変状状況: **⑮舗装の異常**　**ポットホール**

損傷度 : **v**

※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等

水分供給の有無	有
損傷進行性の有無	有
損傷度判定理由：進行すると二輪車などの転倒事故や剥離片の飛散による被害が懸念される。	

橋梁番号･名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋	S62(1987)　48.3m|2| 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

定期点検調書その6　劣化・損傷状況写真　#7/7

写番 25: 排水管0102(第1径間)	水分供給の有無	有
変状状況: ⑤防食機能の劣化	損傷進行性の有無	有
損傷度 : i	損傷度判定理由 :	
※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等		

写番 26: 地覆0102	水分供給の有無	有
変状状況: ⑥ひびわれ	損傷進行性の有無	無
損傷度 : i	損傷度判定理由 :	
※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等		

写番 27: 防護柵0201	水分供給の有無	有
変状状況: ⑤防食機能の劣化	損傷進行性の有無	有
損傷度 : i	損傷度判定理由 :	
※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等		

写番 28:	水分供給の有無	
変状状況:	損傷進行性の有無	
損傷度 :	損傷度判定理由 :	
※写番の後は部材名＋要素（番号,細分)等		

■ マルマルオオハシ　■ 架設年(西暦)　橋長｜径間数｜桁種　米子県土整備局 ：○○○○　■点検日 2024/○/○

○○大橋　■ S62(1987) 48.3m|2| 鋼製桁　鳥取県○○市　県道○○線

定期点検調書その7　概算数量 # 1/1

項目	単位	概算数量	摘要(精度) 資料	図測	推定	適用部材・工法	単位	算出数量	摘要(算定式)
主桁本数	本					①床版上面（床版防水，上面増厚）	m^2	594.6	(B－0.5×2)×L
コンクリート主桁高	m					①床版下面（炭素繊維接着，鋼板接着，断面修復）	m^2	144.9	床版支間×L×(F-1)×α
コンクリート主桁下幅	m					①鋼主桁，横桁，縦桁等（再塗装）		920	鋼橋塗装面積
コンクリート横桁本数	本					①Co.主桁（表面塗装，断面修復，電気防食）	m^2	0.0	(主桁高×2＋下幅)×L×N×α
コンクリート横桁長（平均）	m					①Co.横桁（　〃　）	m^2	0.0	(　〃　)×横桁長×本数×α
鋼橋塗装面積	m^2	920	○						
A1橋台高（フーチング除く）	m	5.00				②A1橋台（表面塗装，断面修復，ひびわれ補修，含浸材塗布，鋼板接着等）			
A2橋台高（　〃　）	m	5.00					m^2	61.6	A1H×(B－0.5×2)×α
						③A2橋台（　〃　）	m^2	61.6	A2H×(B－0.5×2)×α
P1コンクリート橋脚高（　〃　）	m	5.20				④$_{-1}$P1コンクリート橋脚（　〃　）	m^2	0.0	P1H×(W＋T)×2×α
P2コンクリート橋脚高（　〃　）	m					④$_{-2}$P2コンクリート橋脚（　〃　）	m^2	0.0	P2H×(W＋T)×2×α
P3コンクリート橋脚高（　〃　）	m					④$_{-3}$P3コンクリート橋脚（　〃　）	m^2	0.0	P3H×(W＋T)×2×α
P4コンクリート橋脚高（　〃　）	m					④$_{-4}$P4コンクリート橋脚（　〃　）	m^2	0.0	P4H×(W＋T)×2×α
P5コンクリート橋脚高（　〃　）	m					④$_{-5}$P5コンクリート橋脚（　〃　）	m^2	0.0	P5H×(W＋T)×2×α
P6コンクリート橋脚高（　〃　）	m					④$_{-6}$P6コンクリート橋脚（　〃　）	m^2	0.0	P6H×(W＋T)×2×α
コンクリート橋脚幅（加重平均）	m					⑤支承（取替え）	基	20	支承基数
コンクリート橋脚厚	m					⑥舗装（打替え）	m^2	594.6	(B－0.5×2)×L
鋼製橋脚塗装面積	m^2					⑦伸縮装置（取替え）	m	36.9	(B－0.5×2)×(径間数＋1)
						⑧地覆（表面塗装，断面修復，ひびわれ補修等）	m^2	144.9	0.5×6×L×α
鋼製高欄塗装面積(要塗装のとき"1")	m^2					⑧鋼製高欄（再塗装ほか補修）	m	97	L×2
コンクリート高欄高	m					⑧コンクリート高欄（取替え）	m	96.6	L×2
支承基数(ベタの場合は面積:m^2)	基・m^2	20				⑧ガードレール防護柵（取替え）	m	96.6	L×2
落橋防止装置	基								
						①全面吊り足場	m^2	642.9	B×L
						②,③橋台枠組足場（合計）	掛m^2	123.1	AnH×(B＋0.5×2)
補修橋長（諸元の橋長と不一致のとき）	m					④橋脚枠組足場（合計）	掛m^2	20.8	PxH×(W＋T＋2.0)×2×構成数
補修幅員（諸元の幅員と不一致のとき）	m								
						○詳細調査，補修実施設計	式	1	あわせて 1式とする

※ 計算式の記号は L:橋長，B:全幅員，F:床版通り数，N:主桁通り数，AnH:An橋台高，PxH:Px橋脚高，W:橋脚幅，T:橋脚厚とする。
αは補修率（面補修のとき：1.0，厚さ補修のとき：厚さ）を示す。

橋梁番号・名称	マルマルオオハシ ■ 架設年(西暦) 橋長 | 径間数 | 桁種	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋 ■ S62(1987) 48.3m|2| 鋼製桁	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

定期点検調書その8 補修履歴・補修後の変状発生と時期 #1/1

番号	補修時期（西暦）	目的・対策要因	補修部材	補修工法	補修内容・数量	表面被覆材の変状発生・時期		断面修復材の変状発生・時期	
						はくり	はらみだし	変色・劣化	変形・欠損
最新1		鋼橋の再塗装	主桁，横桁等						
最新2		舗装の更新	路面						
最新3		伸縮装置の取替え							
最新4		支承の取替え							
最新5		高欄・防護柵の取替え							
最新6									
最新7									
最新8									
最新9									
最新10									

※ 補修後の変状は、無ければ″ー″，あれば日付を記入する。

橋梁番号・名称	マルマルオオハシ　■ 架設年(西暦)　橋長 | 径間数 | 桁種	米子県土整備局 :〇〇〇〇	■点検日 2024/〇/〇
0	〇〇大橋　■ S62(1987) 48.3m|2| 鋼製桁	鳥取県〇〇市	県道〇〇線

定期点検調書その9　詳細調査履歴 # 1/1

番号	調査時期 (西暦)	目的・対策要因	対象部材	詳細調査項目 (コア抜きには塩分量, Co強度および中性化を含む)				補修工法	補修内容・数量等
				詳細ひびわれ	はつり(鉄筋腐食)	コア抜き	アル骨(残存膨張)		

※ 詳細調査資料は、"橋りょう番号"＋"番号"のフォルダにまとめておく。

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：○○○○	■点検日	
0	○○大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県○○市	路線名	県道○○線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足（状況・要素細分）（補修等）	除外できる要因の抹消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分				
参考調書 その1 上部工・コンクリート床版評価 #1/1	構成する床版通り数	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	:1 無	:21 幅=小，間隔=粗 :11 幅=小，間隔=粗 :12 幅=小，間隔=密	:26 幅=小，間隔=密 :21 幅=中，間隔=粗 :22 幅=中，間隔=密	:36 幅=小，間隔=密 :37 幅=中，間隔=粗 :31 幅=大，間隔=粗	:46 幅=中，間隔=密 :47 幅=大，間隔=粗 :41 幅=大，間隔=密	:56 幅=大，間隔=密 :57 せん断ひびわれ，幅0.3mm以上の曲げ〃		無		塩害
		1方向 2方向(格子状) 床版ひびわれ	P. 91	:1 無	:21 ヘアークラック程度	:31 幅は0.1mm以下が主 :32 間隔0.5m以上 幅0.1mm以下が主	:41 幅0.2mm以下が主 :42 間隔0.5～0.2m 幅0.2mm以下が主	:51 幅0.2mm以上が主 部分的な角落ち :52 間隔0.2m、幅0.2mm、角落ち有					疲労
		剥離 鉄筋露出	P. 77	:1 無	:21 剥離のみ生じている	:31 鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 :32 鉄筋が露出し、腐食が著しい							ｱﾙ骨
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	:1 無	:21 漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない :22 遊離石灰が生じているが、錆汁はない	:31 ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥，錆び汁の混入がある							中性
		変形・欠損	P. 117	:1 無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である							凍害
		補修・補強材の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							
		その他著しいもの（損傷度iiiのもの）		目視困難 :-1 :1 無	抜け落ち 変色 劣化	異常な音，振動 ― 漏水 滞水	異常なたわみ うき						
	構成する床版通り数	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	:1 無	:21 幅=小，間隔=粗 :11 幅=小，間隔=粗 :12 幅=小，間隔=密	:26 幅=小，間隔=密 :21 幅=中，間隔=粗 :22 幅=中，間隔=密	:36 幅=小，間隔=密 :37 幅=中，間隔=粗 :31 幅=大，間隔=粗	:46 幅=中，間隔=密 :47 幅=大，間隔=粗 :41 幅=大，間隔=密	:56 幅=大，間隔=密 :57 せん断ひびわれ，幅0.3mm以上の曲げ〃		無		塩害
		1方向 2方向(格子状) 床版ひびわれ	P. 91	:1 無	:21 ヘアークラック程度	:31 幅は0.1mm以下が主 :32 間隔0.5m以上 幅0.1mm以下が主	:41 幅0.2mm以下が主 :42 間隔0.5～0.2m 幅0.2mm以下が主	:51 幅0.2mm以上が主 部分的な角落ち :52 間隔0.2m、幅0.2mm、角落ち有					疲労
		剥離 鉄筋露出	P. 77	:1 無	:21 剥離のみ生じている	:31 鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 :32 鉄筋が露出し、腐食が著しい							ｱﾙ骨
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	:1 無	:21 漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない :22 遊離石灰が生じているが、錆汁はない	:31 ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥，錆び汁の混入がある							中性
		変形・欠損	P. 117	:1 無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である							凍害
		補修・補強材の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							

※その他著しいもの、除外する劣化要因は

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：〇〇〇〇	■点検日	
0	〇〇大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	路線名	県道〇〇線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足（状況・要素細分）（補修等）	除 外できる要因の抹 消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分				
		その他著しいもの（損傷度iiiのもの）	目視 :-1 困難 :1 無		抜け落ち 変色 劣化	異常な音，振動	漏水 滞水	異常なたわみ うき					

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：〇〇〇〇		■点検日		
0	〇〇大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	路線名	県道〇〇線		

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足（状況・要素細分）（補修等）
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分			
参考調書 その2a 上部工・鋼主桁と横桁，縦桁等評価		腐食	P. 42	:1 無	:21 深さ＝小，面積＝小	:31 深さ＝小，面積＝大	:41 深さ=大，面積=小	:51 深さ=大，面積=大		無		
		亀裂	P. 47	:1 無	:21 線状でない亀裂 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている						
		ゆるみ 脱落	P. 50	:1 無	:21 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が少ない	:31 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が多い						
	構成する桁通り数	防食機能の劣化	P. 55	:1 無	:21 塗装〉防食皮膜が変色または局所的なうき :22 塗装〉防食皮膜が部分的剥離し下塗が露出 :23 メッキ〉局所的に防食皮膜が劣化し点錆が発生 :24 耐候性〉錆は 1～5mm程度で、粗い :25 耐候性〉錆は 5～25mm程度の鱗状	:31 塗装〉防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生 :33 メッキ〉防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生 :34 耐候性〉錆は層状の剥離がある	※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。			無		
		定着部の異常	P. 109	:1 無	:21 定着部のコンクリートのひびわれから錆汁 定着部に損傷	:31 定着部のコンクリートが剥離 定着部に著しい損傷						
		補修・補強材の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる						
		変形・欠損	P. 117	:1 無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である						
		遊間の異常	P. 98	:1 無	:21 左右の遊間が極端に異なる又は遊間が直角方向にずれている	:31 遊間が異常に広い 継ぎ手の歯が完全に離れている又は桁とﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ，桁同士が接触している						

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：〇〇〇〇		■点検日
0	〇〇大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	路線名	県道〇〇線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足 (状況・要素細分) (補修等)
□	要素	変状	参照	i	ii	iii		iv	v	最大変状要素細分		
# 1/1		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難 :-1	無 :1	破断	変色 劣化	異常な 音，振動	漏水 滞水	異常な たわみ			

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：○○○○	■点検日		
0	○○大橋	S62(1987)	48.3m｜2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県○○市	路線名	県道○○線	

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足（状況・要素細分）（補修等）	除外できる要因の抹消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分				
参考調書 その2b 上部工・Co主桁と横桁，縦桁等評価 #1/1	構成する桁通り数	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	:1 無	:21 幅=小，間隔=粗	:36 幅=小，間隔=密	:46 幅=中，間隔=密	:56 幅=大，間隔=密		無			塩害
				:11 幅=小，間隔=粗	:21 幅=中，間隔=粗	:37 幅=中，間隔=粗	:47 幅=大，間隔=粗	:57 せん断ひびわれ，幅0.3mm以上の曲げ〃					
				:12 幅=小，間隔=密	:22 幅=中，間隔=密	:31 幅=大，間隔=粗	:41 幅=大，間隔=密						
		剥離 鉄筋露出	P. 77	:1 無	:21 剥離のみ生じている	:31 鉄筋が露出しているが，腐食は軽微							疲労
						:32 鉄筋が露出し，腐食が著しい							アル骨
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	:1 無	:21 漏水が生じているが，錆汁や遊離石灰はない	:31 ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥，錆び汁の混入がある							中性
					:22 遊離石灰が生じているが，錆汁はない								凍害
		定着部の異常	P. 109	:1 無	:21 定着部のCoのひびわれから錆汁，定着部に損傷	:31 定着部のｺﾝｸﾘｰﾄが剥離 定着部に著しい損傷							
		補修・補強材の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							
		変形・欠損	P. 117	:1 無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である							
		遊間の異常	P. 98	:1 無	:21 左右の遊間が極端に異なる又は遊間が直角方向にずれている	:31 遊間が異常に広い 継手の歯の完全な離れ又は桁とﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ，桁同士の接触		※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。					
		その他著しいもの（損傷度iiiのもの）	目視困難 :-1	:1 無	破断 変色 劣化	異常な音，振動 漏水 滞水	異常なたわみ うき						
	構成する桁通り数	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	:1 無	:21 幅=小，間隔=粗	:36 幅=小，間隔=密	:46 幅=中，間隔=密	:56 幅=大，間隔=密		無			塩害
				:11 幅=小，間隔=粗	:21 幅=中，間隔=粗	:37 幅=中，間隔=粗	:47 幅=大，間隔=粗	:57 せん断ひびわれ，幅0.3mm以上の曲げ〃					
				:12 幅=小，間隔=密	:22 幅=中，間隔=密	:31 幅=大，間隔=粗	:41 幅=大，間隔=密						
		剥離 鉄筋露出	P. 77	:1 無	:21 剥離のみ生じている	:31 鉄筋が露出しているが，腐食は軽微							疲労
						:32 鉄筋が露出し，腐食が著しい							アル骨
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	:1 無	:21 漏水が生じているが，錆汁や遊離石灰はない	:31 ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥，錆び汁の混入がある							中性
					:22 遊離石灰が生じているが，錆汁はない								凍害
		定着部の異常	P. 109	:1 無	:21 定着部のCoのひびわれから錆汁，定着部に損傷	:31 定着部のｺﾝｸﾘｰﾄが剥離 定着部に著しい損傷							
		補修・補強材の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							
		変形・欠損	P. 117	:1 無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である							
		遊間の異常	P. 98	:1 無	:21 左右の遊間が極端に異なる又は遊間が直角方向にずれている	:31 遊間が異常に広い 継手の歯の完全な離れ又は桁とﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ，桁同士の接触		※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。					

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：〇〇〇〇	■点検日	
0	〇〇大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	路線名	県道〇〇線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足（状況・要素細分）（補修等）	除 外できる要因の抹 消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分				
		その他著しいもの（損傷度iiiのもの）	目視 困難 :-1 無 :1		~~破断~~	変色 劣化 異常な 音，振動 ― 漏水 滞水	異常な たわみ うき						

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長 | 径間数 | 桁種	事務所名	米子県土整備局 :○○○○	■点検日
0	○○大橋	S62(1987)	48.3m|2 | 鋼製桁	所在地	鳥取県○○市	路線名	県道○○線

参考調書その3 下部工・コンクリート橋台 #1/1

□	要素	変状	参照	変状度(劣化・損傷度) i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分	緊急処理の必要性	健全性評価	所見,補足(状況・要素細分)(補修等)	除外できる要因の抹消
	① A1橋台	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P.60	無 :-1	幅=小, 間隔=粗 :26	幅=小, 間隔=密 :36	幅=中, 間隔=密 :46	幅=大, 間隔=密 :56		無			塩害
				幅=小, 間隔=粗 :11	幅=中, 間隔=粗 :21	幅=中, 間隔=粗 :37	幅=大, 間隔=粗 :47	せん断ひびわれ, :57 幅0.3mm以上の曲げ〃					
				幅=小, 間隔=密 :12	幅=中, 間隔=密 :22	幅=大, 間隔=粗 :31	幅=大, 間隔=密 :41						
		剥離 鉄筋露出	P.77	:1 無	:21 剥離のみ生じている	:21 鉄筋が露出しているが、腐食は軽微							疲労
						鉄筋が露出し、腐食が著しい :32							アル骨
	鉄筋の有 無	漏水 遊離石灰 錆汁	P.81	:1 無	漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない :21	ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥, 錆び汁の混入がある :31							中性
					遊離石灰が生じているが、錆汁はない :22								凍害
		定着部の異常	P.109	:1 無	定着部のコンクリートのひびわれから錆汁 定着部に損傷 :21	定着部のコンクリートが剥離 定着部に著しい損傷 :31							
		変形・欠損	P.117	:1 無	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
		補修・補強材の損傷	P.86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							
		その他著しいもの(損傷度iiiのもの)		目視困難 :-1 :1 無	破断	変色 劣化	異常な音,振動	漏水 滞水	異常なたわみ	うき			
	② A2橋台	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P.60	無 :-1	幅=小, 間隔=粗 :26	幅=小, 間隔=密 :36	幅=中, 間隔=密 :46	幅=大, 間隔=密 :56		無			塩害
				幅=小, 間隔=粗 :11	幅=中, 間隔=粗 :21	幅=中, 間隔=粗 :37	幅=大, 間隔=粗 :47	せん断ひびわれ, :57 幅0.3mm以上の曲げ〃					
				幅=小, 間隔=密 :12	幅=中, 間隔=密 :22	幅=大, 間隔=粗 :31	幅=大, 間隔=密 :41						
		剥離 鉄筋露出	P.77	:1 無	:21 剥離のみ生じている	:21 鉄筋が露出しているが、腐食は軽微							疲労
						鉄筋が露出し、腐食が著しい :32							アル骨
	鉄筋の有 無	漏水 遊離石灰 錆汁	P.81	:1 無	漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない :21	ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥, 錆び汁の混入がある :31							中性
					遊離石灰が生じているが、錆汁はない :22								凍害
		定着部の異常	P.109	:1 無	定着部のコンクリートのひびわれから錆汁 定着部に損傷 :21	定着部のコンクリートが剥離 定着部に著しい損傷 :31							
		変形・欠損	P.117	:1 無	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
		補修・補強材の損傷	P.86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							
		その他著しいもの(損傷度iiiのもの)		目視困難 :-1 :1 無	破断	変色 劣化	異常な音,振動	漏水 滞水	異常なたわみ	うき			

※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。

※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :○○○○	■点検日	
0	○○大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県○○市	路線名	県道○○線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足 (状況・要素細分) (補修等)	除外できる要因の抹消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分				
定期点検調書 その3 橋台Co基礎	③ 基 礎 (Co)	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無 :1	幅=小，間隔=粗 :26	幅=小，間隔=密 :36	幅=中，間隔=密 :46	幅=大，間隔=密 :56		無			塩害
				幅=小，間隔=粗 :11	幅=中，間隔=粗 :21	幅=中，間隔=粗 :37	幅=大，間隔=粗 :47	せん断ひびわれ，:57 幅0.3mm以上の曲げ〃					疲労
				幅=小，間隔=密 :12	幅=中，間隔=密 :22	幅=大，間隔=粗 :31	幅=大，間隔=密 :41						アル骨
		剥離 鉄筋露出	P. 77	:1 無	:21 剥離のみ生じている	:31 鉄筋が露出しているが、腐食は軽微							中性
						:32 鉄筋が露出し、腐食が著しい							凍害
		変形・欠損	P. 117	:1 無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である							
		沈下 移動 傾斜	P. 120	:1 無		:31 下部工が沈下・移動・傾斜している							
		洗掘	P. 121	:1 無	:21 基礎が流水のため洗掘されている	:31 基礎が流水のため著しく洗掘されている							
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視困難	:-1									
定期点検調書 その3 橋台鋼基礎 #1/1	③ 基 礎 (鋼製)	腐食	P. 42	:1 無	:21 深さ＝小，面積＝小	:31 深さ＝小，面積＝大	:41 深さ=大，面積=小	:51 深さ=大，面積=大		無			
		亀裂	P. 47	:1 無	:21 線状でない亀裂 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている							
		防食機能の劣化	P. 55	:1 無	:21 塗装〉防食皮膜が変色または局所的なうき	:31 塗装〉防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生							
					:22 塗装〉防食皮膜が部分的剥離し下塗が露出								
					:23 メッキ〉局所的に防食皮膜が劣化し点錆が発生	:33 メッキ〉防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生							
					:24 耐候性〉錆は 1～5mm程度で、粗い	:34 耐候性〉錆は層状の剥離がある							
					:25 耐候性〉錆は 5～25mm程度の鱗状								
		沈下 移動 傾斜	P. 120	:1 無		:31 下部工が沈下・移動・傾斜している							
		洗掘	P. 121	:1 無	:21 基礎が流水のため洗掘されている	:31 基礎が流水のため著しく洗掘されている							
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視困難	:-1									

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 :○○○○	■点検日	
0	○○大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所在地	鳥取県○○市	路線名	県道○○線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所見，補足（状況・要素細分）（補修等）	除外できる要因の抹消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分				
参考調書 その4a 下部工・コンクリート橋脚評価 #1/1		構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無 :1 幅=小，間隔=粗 :11 幅=小，間隔=密 :12	幅=小，間隔=粗 :26 幅=中，間隔=粗 :21 幅=中，間隔=密 :22	幅=小，間隔=密 :36 幅=中，間隔=粗 :37 幅=大，間隔=粗 :31	幅=中，間隔=密 :46 幅=大，間隔=粗 :47 幅=大，間隔=密 :41	幅=大，間隔=密 :56 せん断ひびわれ，:57 幅0.3mm以上の曲げ〃		無			塩害
		剥離 鉄筋露出	P. 77	:1 無	:21 剥離のみ生じている	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 :31 鉄筋が露出し、腐食が著しい :32							疲労 アル骨
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	:1 無	漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない :21 遊離石灰が生じているが、錆汁はない :22	ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥，錆び汁の混入がある :31							中性 凍害
		定着部の異常	P. 109	:1 無	定着部のコンクリートのひびわれから錆汁 定着部に損傷 :21	定着部のコンクリートが剥離 定着部に著しい損傷 :31							
		変形・欠損	P. 117	:1 無	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
		補修・補強材の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							
		その他著しいもの（損傷度iiiのもの）	目視困難 :-1	:1 無	破断 変色 劣化	異常な音，振動 漏水 滞水	異常なたわみ うき						
		構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無 :1 幅=小，間隔=粗 :11 幅=小，間隔=密 :12	幅=小，間隔=粗 :26 幅=中，間隔=粗 :21 幅=中，間隔=密 :22	幅=小，間隔=密 :36 幅=中，間隔=粗 :37 幅=大，間隔=粗 :31	幅=中，間隔=密 :46 幅=大，間隔=粗 :47 幅=大，間隔=密 :41	幅=大，間隔=密 :56 せん断ひびわれ，:57 幅0.3mm以上の曲げ〃		無			塩害
		剥離 鉄筋露出	P. 77	:1 無	:21 剥離のみ生じている	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 :31 鉄筋が露出し、腐食が著しい :32							疲労 アル骨
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	:1 無	漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない :21 遊離石灰が生じているが、錆汁はない :22	ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥，錆び汁の混入がある :31							中性 凍害
		定着部の異常	P. 109	:1 無	定着部のコンクリートのひびわれから錆汁 定着部に損傷 :21	定着部のコンクリートが剥離 定着部に著しい損傷 :31							
		変形・欠損	P. 117	:1 無	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
		補修・補強材の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							

※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：〇〇〇〇		■点検日
0	〇〇大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	路線名	県道〇〇線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）								
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分	緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足 (状況・要素細分) (補修等)	除 外できる要因の抹 消
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 :-1 :1 困難 無		破断	変色 劣化 異常な 音，振動 _ 漏水 滞水	異常な たわみ うき						

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長 | 径間数 | 桁種	事務所名	米子県土整備局 ：〇〇〇〇	■点検日
0	〇〇大橋	S62(1987)	48.3m|2 | 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	路線名	県道〇〇線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足（状況・要素細分）（補修等）
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分			
参考調書 その4b 下部工・鋼製橋脚評価 #1/1		腐食	P. 42	:1	:21 深さ＝小，面積＝小	:31 深さ＝小，面積＝大	:41 深さ=大，面積=小	:51 深さ=大，面積=大		無		
		亀裂	P. 47	:1 無	:21 線状でない亀裂 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている						
		ゆるみ 脱落	P. 50	:1 無	:21 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が少ない	:31 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が多い						
		防食機能の劣化	P. 55	:1 無	:21 塗装〉防食皮膜が 変色または局所的なうき :22 塗装〉防食皮膜が 部分的剥離し下塗が露出 :23 メッキ〉局所的に防食 皮膜が劣化し点錆が発生 :24 耐候性〉 錆は 1～5mm程度で、粗い :25 耐候性〉 錆は 5～25mm程度の鱗状	:31 塗装〉 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 :33 メッキ〉防食皮膜の 劣化範囲が広く点錆が発生 :34 耐候性〉 錆は層状の剥離がある					
		変形・欠損	P. 117	:1 無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である						
		補修・補強材 の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる						
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視困難 :-1	:1 無	破断 変色 劣化	異常な音，振動 漏水 滞水	異常なたわみ					
		腐食	P. 42	:1	:21 深さ＝小，面積＝小	:31 深さ＝小，面積＝大	:41 深さ=大，面積=小	:51 深さ=大，面積=大		無		
		亀裂	P. 47	:1 無	:21 線状でない亀裂 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている						
		ゆるみ 脱落	P. 50	:1 無	:21 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が少ない	:31 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が多い						
		防食機能の劣化	P. 55	:1 無	:21 塗装〉防食皮膜が 変色または局所的なうき :22 塗装〉防食皮膜が 部分的剥離し下塗が露出 :23 メッキ〉局所的に防食 皮膜が劣化し点錆が発生 :24 耐候性〉 錆は 1～5mm程度で、粗い :25 耐候性〉 錆は 5～25mm程度の鱗状	:31 塗装〉 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 :33 メッキ〉防食皮膜の 劣化範囲が広く点錆が発生 :34 耐候性〉 錆は層状の剥離がある					
		変形・欠損	P. 117	:1 無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である						
		補修・補強材 の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる						

※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：〇〇〇〇	■点検日
0	〇〇大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	路線名	県道〇〇線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足（状況・要素細分）（補修等）
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分			
		その他著しいもの（損傷度iiiのもの）	目視 困難 :-1 無 :1		破断 変色 劣化	異常な音，振動 _ 漏水 滞水	異常なたわみ					

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名			■点検日
0	〇〇大橋	S62(1987)	48.3m｜2 ｜ 鋼製桁	所在地	鳥取県〇〇市	路線名	県道〇〇線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所見，補足（状況・要素細分）（補修等）
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分			
参考調書 その5 支承部評価 #1/2	①支承 ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ含む	腐食	P. 42	:1	:21 深さ＝小，面積＝小	:31 深さ＝小，面積＝大	:41 深さ=大，面積=小	:51 深さ=大，面積=大		無		
		亀裂	P. 47	:1 無	:21 線状でない亀裂 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている						
		ゆるみ脱落	P. 50	:1 無	:21 ボルトのゆるみ・脱落の箇所が少ない	:31 ボルトのゆるみ・脱落の箇所が多い						
		遊間の異常	P. 98	:1 無	:21 左右の遊間が極端に異なる又は遊間が直角方向にずれている	:31 遊間が異常に広い 継ぎ手の歯が完全に離れている又は桁とﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ，桁同士が接触している						
		変形・欠損	P. 117	:1 無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である						
		補修・補強材の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる						
	材質	防食機能の劣化	P. 55	:1 無	:21 塗装〉防食皮膜が変色または局所的なうき :22 塗装〉防食皮膜が部分的剥離し下塗が露出 :23 メッキ〉局所的に防食皮膜が劣化し点錆が発生	:31 塗装〉防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生 :33 メッキ〉防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生						
		沈下・移動・傾斜	P. 120	:1 無		:31 支点が沈下している 下部工が移動･傾斜						
		その他著しいもの(損傷度iiiのもの)	目視困難	:-1 :1 無	破断 変色 劣化	異常な音，振動 _ 漏水 滞水	土砂詰り 支承の機能障害					

※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名			■点検日
0	マルマルオオハシ 〇〇大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所在地	米子県土整備局 :〇〇〇〇 鳥取県〇〇市	路線名	県道〇〇線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所見，補足（状況・要素細分）（補修等）
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分			
参考調書 その5 支承部評価 #2/2	② 落橋防止装置 (鋼製部)	腐食	P. 42	:1	:21 深さ＝小，面積＝小	:31 深さ＝小，面積＝大	:41 深さ=大，面積=小	:51 深さ=大，面積=大		無		
		亀裂	P. 47	:1 無	線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている						
		ゆるみ 脱落	P. 50	:1 無	ボルトのゆるみ・ :21 脱落の箇所が少ない	ボルトのゆるみ・ :31 脱落の箇所が多い						
		変形・欠損	P. 117	:1 無	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である						
		防食機能の劣化	P. 55	:1 無	塗装〉防食皮膜が :21 変色または局所的なうき	:31 塗装〉 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生						
					塗装〉防食皮膜が :22 部分的剥離し下塗が露出							
					メッキ〉局所的に防食 :23 皮膜が劣化し点錆が発生	メッキ〉防食皮膜の :33 劣化範囲が広く点錆が発生						
		遊間の異常	P. 98	:1 無	左右の遊間が :21 極端に異なる又は遊間が 直角方向にずれている	遊間が異常に広い :31 継ぎ手の歯が完全に離れ ている又は桁とﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ， 桁同士が接触している						
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難	:-1 :1 無	破断 変色 劣化	異常な 音，振動 ― 漏水 滞水	異常な たわみ 機能 障害					
	③ 落橋防止装置 (Co部) 沓座拡幅部 変位制限 装置等も 含む	ひびわれ 構造物への影響大	P. 60	:1 無	幅=小，間隔=粗 :26	幅=小，間隔=密 :36	幅=中，間隔=密 :46	幅=大，間隔=密 :56		無		
				幅=小，間隔=粗 :11	幅=中，間隔=粗 :21	幅=中，間隔=粗 :37	幅=大，間隔=粗 :47	せん断ひびわれ，:57 幅0.3㎜以上の曲げ〃				
		構造物への影響小		幅=小，間隔=密 :12	幅=中，間隔=密 :22	幅=大，間隔=粗 :31	幅=大，間隔=密 :41					
		剥離 鉄筋露出	P. 77	:1 無	:21 剥離のみ生じている	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 :31						
						鉄筋が露出し、腐食が著しい :32						
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	:1 無	漏水が生じているが、 :21 錆汁や遊離石灰はない	ひびわれから :31 著しい漏水や遊離石灰 または泥，錆び汁の混入 がある						
					遊離石灰が生じて :22 いるが、錆汁はない							
		遊間の異常	P. 98	:1 無	左右の遊間が :21 極端に異なる又は遊間が 直角方向にずれている	遊間が異常に広い :31 継ぎ手の歯が完全に離れ ている又は桁とﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ， 桁同士が接触している						
		変形・欠損	P. 117	:1 無	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である						
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難	:-1 :1 無	破断 変色 劣化	異常な 音，振動 ― 漏水 滞水	異常な たわみ うき	土砂 詰り				

除外できる要因の抹消

除　外 できる 要因の 抹　消
塩害
疲労
アル骨
中性
凍害

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：○○○○	■点検日
0	○○大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県○○市	路線名	県道○○線

参考調書

その6 路上部1・舗装，伸縮装置等評価 # 1/1

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足（状況・要素細分）（補修等）	除外できる要因の抹消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分				
	①舗 装	路面の凹凸	P. 100	:1 無	路面の段差が 2cm未満 :21	路面の段差が 2cm以上 :31				無			
		舗装の異常	P. 102	:1 無		舗装の ひびわれ幅が 5mm以上 過度のたわみが発生 :31							
	②伸縮装置	遊間の異常	P. 98	:1 無	左右の遊間が 極端に異なる又は遊間が 直角方向にずれている :21	遊間が異常に広い 継ぎ手の歯が完全に離れている又は桁とﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ，桁同士が接触している :31				無			
		路面の凹凸	P. 100	:1 無	路面の段差が 2cm未満 :21	路面の段差が 2cm以上 :31							
		止水機能		:1 有		:2 無							
		構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無 :1 / 幅=小，間隔=粗 :11 / 幅=小，間隔=密 :12	幅=小，間隔=粗 :26 / 幅=中，間隔=粗 :21 / 幅=中，間隔=密 :22	幅=小，間隔=密 :36 / 幅=中，間隔=密 :37 / 幅=大，間隔=粗 :31	幅=中，間隔=密 :46 / 幅=大，間隔=粗 :47 / 幅=大，間隔=密 :41	幅=大，間隔=密 :56 / せん断ひびわれ，:57 / 幅0.3mm以上の曲げ〃					
		腐食	P. 42	:1	:21 深さ＝小，面積＝小	:31 深さ＝小，面積＝大	:41 深さ=大，面積=小	:51 深さ=大，面積=大		無			
		亀裂	P. 47	:1 無	線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている							
		変形・欠損	P. 117	:1 無	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
	材質 不明	防食機能の劣化	P. 55	:1 無	塗装〉防食皮膜が 変色または局所的なうき :21 / 塗装〉防食皮膜が 部分的剥離し下塗が露出 :22 / メッキ〉局所的に防食皮膜が劣化し点錆が発生 :23	:31 塗装〉防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生 / メッキ〉防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生 :33							
		その他著しいもの（損傷度iiiのもの）	目視困難 :-1	:1 無	破断 変色 劣化	異常な音，振動 － 漏水 滞水	土砂詰り うき						
	③排水桝 排水管	防食機能の劣化	P. 55	:1 無	塗装〉防食皮膜が 変色または局所的なうき :21 / 塗装〉防食皮膜が 部分的剥離し下塗が露出 :22 / メッキ〉局所的に防食皮膜が劣化し点錆が発生 :23	:31 塗装〉防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生 / メッキ〉防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生 :33				無			
		腐食	P. 42	:1	:21 深さ＝小，面積＝小	:31 深さ＝小，面積＝大	:41 深さ=大，面積=小	:51 深さ=大，面積=大					
		変形・欠損	P. 117	:1 無	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：○○○○	■点検日
0	○○大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県○○市	路線名	県道○○線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足（状況・要素細分）（補修等）	除外できる要因の抹消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分				
		その他著しいもの（損傷度iiiのもの）	目視 困難 :-1 :1 無		破断	変色 劣化	異常な音，振動	＿ 漏水 滞水	土砂詰り				
参考調書 その7 路上部2・地覆，評価#1/1	①地覆（コンクリート）	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	:1 無	:26 幅=小，間隔=粗	:36 幅=小，間隔=密	:46 幅=中，間隔=密	:56 幅=大，間隔=密		無			塩害
				:11 幅=小，間隔=粗	:21 幅=中，間隔=粗	:37 幅=中，間隔=粗	:47 幅=大，間隔=粗	:57 せん断ひびわれ，幅0.3㎜以上の曲げ〃					
				:12 幅=小，間隔=密	:22 幅=中，間隔=密	:31 幅=大，間隔=粗	:41 幅=大，間隔=密						疲労
		剥離 鉄筋露出	P. 77	:1 無	:21 剥離のみ生じている	:31 鉄筋が露出しているが、腐食は軽微							ｱﾙ骨
						:32 鉄筋が露出し、腐食が著しい							中性
		変形・欠損	P. 117	:1 無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である							凍害
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	:1 無	:21 漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない	:31 ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥，錆び汁の混入がある							
					:22 遊離石灰が生じているが、錆汁はない								
		補修・補強材の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							
		その他著しいもの（損傷度iiiのもの）	目視 困難 :-1 :1 無		破断	変色 劣化	異常な音，振動	＿ 漏水 滞水	異常なたわみ うき				
	①地覆（鋼製）	腐食	P. 42	:1	:21 深さ＝小，面積＝小	:31 深さ＝小，面積＝大	:41 深さ=大，面積=小	:51 深さ=大，面積=大		無			
		亀裂	P. 47	:1 無	:21 線状でない亀裂 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている							
		ゆるみ 脱落	P. 50	:1 無	:21 ボルトのゆるみ・脱落の箇所が少ない	:31 ボルトのゆるみ・脱落の箇所が多い							
		変形・欠損	P. 117	:1 無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である							
		補修・補強材の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							
		防食機能の劣化	P. 55	:1 無	:21 塗装〉防食皮膜が変色または局所的なうき	:31 塗装〉防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生							
					:22 塗装〉防食皮膜が部分的剥離し下塗が露出								
					:23 メッキ〉局所的に防食皮膜が劣化し点錆が発生	:33 メッキ〉防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生							
		その他著しいもの（損傷度iiiのもの）	目視 困難 :-1 :1 無		破断	変色 劣化	異常な音，振動	＿ 漏水 滞水	異常なたわみ				

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：○○○○	■点検日
0	○○大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県○○市	路線名	県道○○線

参考調書 その7 路上部3・高欄，評価# 1/1

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足（状況・要素細分）（補修等）	除外できる要因の抹消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分				
	② 鋼製高欄 防護柵 (ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ)	腐食	P. 42	:1	:21 深さ＝小，面積＝小	:31 深さ＝小，面積＝大	:41 深さ=大，面積=小	:51 深さ=大，面積=大		無			
		亀裂	P. 47	:1 無	線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている							
		ゆるみ 脱落	P. 50	:1 無	ボルトのゆるみ・ :21 脱落の箇所が少ない	ボルトのゆるみ・ :31 脱落の箇所が多い							
		変形・欠損	P. 117	:1 無	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
		補修・補強材の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							
		防食機能の劣化	P. 55	:1 無	塗装〉防食皮膜が :21 変色または局所的なうき 塗装〉防食皮膜が :22 部分的剥離し下塗が露出 メッキ〉局所的に防食 :23 皮膜が劣化し点錆が発生	:31 塗装〉 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 メッキ〉防食皮膜の :33 劣化範囲が広く点錆が発生							
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 :-1 困難	:1 無	破断 / 変色 劣化	異常な音，振動 / 漏水 滞水	異常なたわみ						
	③ Co高欄 (壁式)	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無 :1 幅=小，間隔=粗 :11 幅=小，間隔=密 :12	幅=小，間隔=粗 :26 幅=中，間隔=粗 :21 幅=中，間隔=密 :22	幅=小，間隔=密 :36 幅=中，間隔=密 :37 幅=大，間隔=粗 :31	幅=中，間隔=密 :46 幅=大，間隔=粗 :47 幅=大，間隔=密 :41	幅=大，間隔=密 :56 せん断ひびわれ，:57 幅0.3mm以上の曲げ〃		無			塩害
		剥離 鉄筋露出	P. 77	:1 無	:21 剥離のみ生じている	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 :31 鉄筋が露出し、腐食が著しい :32							疲労 アル骨
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	:1 無	漏水が生じているが、 :21 錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じて :22 いるが、錆汁はない	ひびわれから :31 著しい漏水や遊離石灰 または泥，錆び汁の混入 がある							中性 凍害
		変形・欠損	P. 117	:1 無	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
		補修・補強材の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 :-1 困難	:1 無	破断 / 変色 劣化	異常な音，振動 / 漏水 滞水	異常なたわみ	うき					

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：〇〇〇〇	■点検日	
0	〇〇大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	路線名	県道〇〇線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足（状況・要素細分）（補修等）	除外できる要因の抹消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分				
参考調書	点検施設	ゆるみ 脱落	P. 50	:1 無	ボルトのゆるみ・ :21 脱落の箇所が少ない	ボルトのゆるみ・ :31 脱落の箇所が多い				無			
		防食機能の劣化	P. 55	:1 無	塗装〉防食皮膜が :21 変色または局所的なうき 塗装〉防食皮膜が :22 部分的剥離し下塗が露出 メッキ〉局所的に防食 :23 皮膜が劣化し点錆が発生	:31 塗装〉 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 メッキ〉防食皮膜の :33 劣化範囲が広く点錆が発生							
		腐食	P. 42	:1 無	:21 深さ＝小，面積＝小	:31 深さ＝小，面積＝大	:41 深さ=大，面積=小	:51 深さ=大，面積=大					
		亀裂	P. 47	:1 無	線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている							
		変形・欠損	P. 117	:1 無	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難	:-1 :1 無	破断 変色 劣化	異常な音，振動 ― 漏水 滞水	異常なたわみ 土砂詰り	機能障害					

その7点検施設，評価#1/1

橋りょう番号・名称	マルマルオオハシ	架設年(西暦)	橋長｜径間数｜桁種	事務所名	米子県土整備局 ：〇〇〇〇		■点検日
0	〇〇大橋	S62(1987)	48.3m|2 ｜ 鋼製桁	所 在 地	鳥取県〇〇市	路線名	県道〇〇線

点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急処理の必要性	健全性評価	所 見，補 足（状況・要素細分）（補修等）	除 外できる要因の抹 消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状要素細分				